

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	35-24-1	学校給食に親しむ取り組み	岡山県倉敷市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	おやこ給食ログブック		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	まちケアローリングストック研究会		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	<span style="color: red;">1</span>	
メンバー数（公開）	4名		
代表者（公開）	藤原 千穂		
メンバー（公開）	守屋 涼子（管理栄養士） 鈴木 奈穂美 山中 弓子（看護師）		

#### **【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

<b>アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認</b>	<b>○</b>
--	----------

**（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。**

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

#### (1) アイデアの内容（公開）

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

学校給食はみんなおなじ献立ですが、食物アレルギー、感覚過敏等により給食が摂りづらい子どもたちがいます。食物アレルギーについては手引が示される等、対応がすすんでいます。発達障害児等の偏食傾向については参考となる資料は少なく手引きも示されていません。家庭で事前の説明に使ったり、栄養管理を支援するアプリ「給食ログブック」を開発し、「特定のものしか食べない」「見慣れないものは絶対口に入れない」など偏食で悩んでいる保護者を応援します。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

#### ■倉敷市の課題

給食に興味がわく、給食が好きになる、あるいは毎日の食生活全体に役立つ、そんな給食に関するアイデアはありますか？給食献立表をはじめとする倉敷市の給食の情報を見て、おもしろいアイデアを考えてみませんか？

#### ■アイデアの概要

##### (1) 給食オープンデータづくり

政府推奨データセット定義「学校給食献立情報」を参考に、テレワーカーが、公開資料から倉敷市立小中学校・保育園献立予定表を機械判読可能なデータを作成します。公開状況は、表-1の通りであるため、給食献立表のオープンデータ公開を要望します。

表-1 給食献立情報の公開状況（R3/12時点）

公開ページ	対象	公開データ
倉敷中央学校給食共同調理場 献立予定表ページ	市立中学校	PDF・月次更新・過去3年間
各小学校 給食ページ	市立小学校	PDF等・不定期掲載
保育・幼稚園課 保育園給食献立表ページ	市立保育園	PDF・月次更新・最新3か月

##### (2) 給食ログブック制作

モデルとして、小学校給食オープンデータを活用して、「おやこ給食ログブック（アプリ）」を制作します。

###### 【提供機能】

- ◇ 登校前、今日の給食について、事前に保護者が子どもに説明して、心構えや見通しをつけることができます。
- ◇ 下校後、給食の様子について会話して、子どもの「好き」「嫌い・苦手」「感覚の特性」を確認します。
- ◇ 食事の記録から不足する栄養素を可視化し、補完する食材や料理を提案します。
- ◇ 簡単な操作で記録をとることで、変化や成長を把握でき、小児科等での食育指導にも活用できます。
- ◇ 毎日必ず記録しなくても、できる範囲で残した記録で栄養チェックできます。

表-2 給食ログブックアプリ提供機能

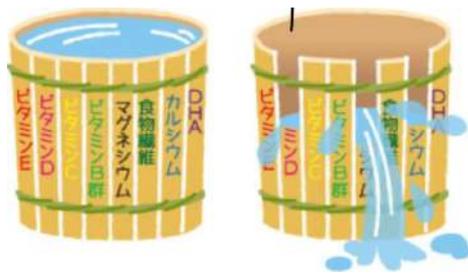
機能	内容	ログ（記録データ）
給食献立表	給食献立表の閲覧（今日、今週）	閲覧記録、日時

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

何食べた？	給食献立表から食べたもの、食べなかったものを選択	食べたもの、食べなかったもの、量、程度、日時
お話しかせて	うれしかったこと（おいしかった、全部食べた、次は食べるなど）を選択 いやだったこと（色、におい、形、音、触感 など）を選択	うれしかった理由、いやだった理由、日時
栄養チェック	倉敷市保健所「10の食品群チェック表」をもとに、 ◇ 1週間の栄養バランスが摂れているか、 ◇ 必要カロリーが摂れているか判定し、 ドベネックの桶モデルで不足している栄養素を可視化	栄養バランス 不足している栄養素 日時
召し上がれ	事前に登録しておいた食べられるものから補完食材や料理を提案	おすすめ食材・料理の参照 食べた記録、日時
備蓄食	特性に応じた備蓄食リストを作成	備蓄食リスト、日時

ドベネックの桶



倉敷市保健所「10の食品群チェック表」

**バランス良く  
食べられていますか？**

いろいろな食品を食べられることが、糖尿病などの生活習慣病予防や低栄養予防につながります。  
チェック1つを1点として1日の合計点を出してみましょう。

10の食品群チェック表

に、プラスして次の食品をとりまじりましょう。

さ	かな	動物性たんぱく質やカルシウム、ビタミンDが豊富。 (干物や加工品、いか、えび、かにを含む)							
あ	ぶら	適度な油分は細胞を作るのに必要。 (炒め物、バター、ドレッシング、ナッツ類、ごまを含む)							
に	く	良質なたんぱく質の代表。 (ウインナー、ベーコンなどの加工品を含む)							
き	ゆうにゆう	たんぱく質とカルシウムが豊富。 (チーズ、ヨーグルトなどの乳製品を含む)							
や	さい きのこ	ビタミンや食物繊維を十分にとれる。 加熱などでかさを減らし、たっぷり。							
か	いそう	低エネルギーでも、ミネラルと食物繊維が豊富。(のりやひじきの乾物を含む)							
い	も	糖質でエネルギー補給、ビタミン・ミネラルもチャージ！ふかしておやつ代わりに。							
た	まご	色々な調理法で簡単にたんぱく質がとれる。							
だ	いず	たんぱく質の元となる必須アミノ酸や、カルシウムも豊富。(豆腐や油揚げなども)							
く	だもの	ビタミン・ミネラルが多く、食物繊維もとれる。							
合計点									

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー

ユー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

### ■ 平時・非常時の特性に応じた食事を考える必要性

備える暮らしまちケアローリングストック研究会では、普段から少し多めに食材や生活用品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄をしておく方法について知っていただくためのワークショップの開催や、コンテンツの配信を行っています。

特に重要なことは、家族の人数や特性に応じた備蓄計画づくりです。



まちケア コモンズ 食品はおいしく食べよう

まちケアローリングストック研究会会長  
（一社）日本避難所支援機構 山中弓子ナース

避難所や被災地では、全員に同じ食事が配られるため、乳幼児、高齢者、慢性疾患・食物アレルギー、感覚過敏の方等は、配られる食事が摂りづらいケースもあります。

家庭備蓄を行う際には、「要配慮者のための災害時に備えた食品ストックガイド」等を参考に、備蓄計画をつくっておくことをおすすめしています。また、偏食傾向のある発達障害児等の備蓄食についても相談も行っています。

全員に同じ食事が配られるという点においては、学校給食も同様です。

平時も非常時も、特性に応じて必要な栄養を摂取するために、

- ◇ 子どもの「好き」「嫌い・苦手」「感覚の特性」を把握し、五感や固有受容覚に分けて整理する
  - ◇ 食べられるもので栄養バランスが摂れているか、また、必要カロリーが摂れているか確認しておく
- と安心です。（引用：東京都立心身障害者口腔保健センター センターだより第 39 号「悩んでいませんか？ 発達障害児の偏食と解決のヒント」）

### ■ 発達障害児の偏食傾向

「食べられるものが極端に少ない」「同じものばかり食べる」…。発達障害のある子どもたちが直面する大きな問題として、いま注目が集まっているのが「偏食」です。好き嫌いをするのはワガママと捉えられてしまいがちですが、発達障害の特性によって引き起こされている可能性があります。

発達障害には、五感の刺激に対してとても敏感である「感覚過敏」、五感が鈍い「感覚の低反応」、それら両方が「混在した感覚」など多様な感覚を持つ人が多いとされています。五感で“食べられない”と認識したものに対して、身体が生理的に拒絶してしまいます。また、認知機能の発達がゆっくりな場合、いつも食べている食材の形が変わると別物と認識してしまい手が出せなくなったり、食べたことがないものに不安を感じて食事が進まなくなることがあります。

（引用：東京都立心身障害者口腔保健センター センターだより第 39 号「悩んでいませんか？ 発達障害児の偏食と解決のヒント」）

### ■ 特別支援学級在籍者数の増加

義務教育段階の全児童生徒数 989 万人中、特別支援学級に在籍する子どもは約 23 万 6 千人、通常学級

に在籍する子どものうち通級による指導を受けている子どもは約 10 万 9 千人で、いずれもこの 10 年間で 2 倍以上に増加しています。

（出典：日本の特別支援教育の状況について（文部科学省令和元年 9 月 25 日「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」）

### 特別支援教育の現状

障害のある子供に対し、多様な学びの場において、少人数の学級編制、特別の教育課程等による適切な指導及び支援を実施。

	特別支援学校	小・中学校等	
		特別支援学級	通級による指導
概要	障害の程度が比較的重い子供を対象として、専門性の高い教育を実施	障害の種別ごとの学級を編制し、子供一人一人に応じた教育を実施	大部分の授業を在籍する通常の学級で受けながら、一部の時間で障害に応じた特別な指導を実施
対象障害種と人数 （※平成29年度）	視覚障害 (約5,300人) 聴覚障害 (約8,300人) 知的障害 (約128,900人) 肢体不自由 (約31,800人) 病弱・身体虚弱 (約19,400人) ※重複障害の場合はダブルカウントしている 合計：約141,900人 （平成19年度の約1.3倍）	知的障害 (約113,000人) 肢体不自由 (約4,500人) 病弱・身体虚弱 (約3,500人) 弱視 (約500人) 難聴 (約1,700人) 言語障害 (約1,700人) 自閉症・情緒障害 (約110,500人) 合計：約235,500人 （平成19年度の約2.1倍）	言語障害 (約37,600人) 自閉症 (約19,600人) 情緒障害 (約14,600人) 弱視 (約200人) 難聴 (約2,200人) 学習障害 (約16,500人) 注意欠陥多動性障害 (約18,100人) 肢体不自由 (約120人) 病弱・身体虚弱 (約30人) 合計：約109,000人 ※公立小・中 （平成19年度の約2.4倍）
幼児児童生徒数 （※平成29年度）	幼稚部：約 1,400人 小学部：約41,100人 中学部：約30,700人 高等部：約68,700人 全児童生徒の0.7%	小学校：約167,300人 中学校：約 68,200人 全児童生徒の2.4%	小学校：約97,000人 中学校：約12,000人 高等学校は平成30年度から開始 全児童生徒の1.1%
学級編制定数措置（公立）	【小・中】1学級6人 【高】1学級8人 ※重複障害の場合、1学級3人	1学級8人	【小・中】13人に1人の教員を措置 ※平成29年度から基礎定数化 【高】加配措置
教育課程	各教科等に加え、「自立活動」の指導を実施。障害の状態等に応じた弾力的な教育課程が編成可。 ※知的障害者を教育する特別支援学校では、他の障害種と異なる教育課程を編成。	基本的には、小学校・中学校の学習指導要領に沿って編成するが、実態に応じて、特別支援学校の学習指導要領を参考とした特別の教育課程が編成可。	通常の学級の教育課程に加え、又はその一部に替えた特別の教育課程を編成。 【小・中】週1～8コマ以内 【高】年間7単位以内
それぞれの児童生徒について個別的教育支援計画（家庭、地域、医療、福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で教育的支援を行うための計画）と個別の指導計画（一人一人の教育的ニーズに応じた指導目標、内容、方法をまとめた計画）を作成。			

※通常の学級における発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）の可能性のある児童生徒：6.5%程度の在籍率（平成24年文部科学省の調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものでない点に留意。）



**(3) アイデア実現までの流れ（公開）**

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

■ **実現する主体**

倉敷市との連携のもと一般社団法人データクレイドルが主体的に活動を推進します。  
 （活動の拠点は倉敷市委託データ分析サロン）

■ **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**

既存のシステム資源（倉敷市オープンデータプラットフォーム、まちケアコモンズローリングストック、データキッズ）を活用し、テレワーカー、企業等のSDGsの取り組みとの連携など、多様な方々とのパートナーシップで実現を目指します。

	ヒト	モノ	カネ
給食オープンデータづくり	テレワーカー	倉敷市オープンデータプラットフォーム活用	倉敷市オープンデータプラットフォーム運営費
給食ログブック制作	まちケア運用チーム	まちケアコモンズ <a href="https://machicare.com/">https://machicare.com/</a> データキッズ <a href="http://data-kids.com/">http://data-kids.com/</a> プログラム活用	市民協働事業提案

■ **実現までのスケジュール**

	2022										2023			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	
プロジェクト立ち上げ	→													
市民協働事業提案							→							
給食情報収集設計	→													
オープンデータ化			→											
給食ログブック設計			→											
給食ログブック開発						→								
プロトタイプリリース									→					
試用ユーザー募集										→				
ヒアリング・まとめ										→				
機能改善										→				
リリース													●	

※ワークショップはオンライン形式での実施も想定